

虫眼とアニ眼

宮崎駿・養老孟司 対談 (新潮文庫)



■アニメーター宮崎駿さんと解剖学者の養老孟司さんの本です。カラーイラスト多数で荒川修作さん提案の賃貸住宅群など楽しい提案が掲載されています。1997、1998、2001 対談と、2人の私論。虫好きな養老孟司さんの自然環境に対する眼。宮崎駿さんのぼくの友人（小さな女の子・男の子）に対する眼の対談です。あの子を楽しませられるかが勝負で、へんな時間や空間を提供し続けたくって、という宮崎さん。子どもの生きる力をていねいに殺しているのが大人という養老さん。

「千と千尋の神隠し」がベルリン金熊賞を2002年に受賞、映画の中で描かれている日本の建物（戦後の木造モルタルとか）は、情けない風景だけど、どこかに残しておきたいという気持ちがあって、とのこと。美術スタッフが異様に力を発揮し、ふすま絵、格天井のところの板絵1枚1枚、これはキキョウだとか、これはスイセンだって言いながら描いていたそうです。



■本へのとびら（岩波新書）は、宮崎駿が選ぶ岩波少年文庫50冊を紹介しています。

クマのプーさんでは、「アニメで知っている人も多いでしょう。でも原作はくらべものにならない素敵なおはなしです。・・・本を書くっていい仕事だなあって思いました。」たのしい川べでは、「まあなんと上手なさし絵でしょう。絵を見ているだけで充分満足します。この画家がアニメーションをやったらものすごく腕の良いアニメーターになったでしょう・・・」

チポリーノの冒険では、「お話はもちろんおもしろいですが、さし絵がとくに上手で愉快で楽しめます。トマト騎士とか、ちびレモン兵とか、ぼくは大好きになって、絵の描き方でずい分影響をうけました。」

宝物のような表紙、E・Hシェパードなどの見とれる挿絵、石井桃子さんなどの素晴らしい翻訳、中川李枝子さんのお話や、3.11のあとに、子どもたちへのエールなど。

(自由貸出可 黒野)

